

芸術工学部・芸術工学研究院

I	研究水準	研究 10-2
II	質の向上度	研究 10-3

I 研究水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

1. 研究活動の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究活動の実施状況」のうち、研究の実施状況について、教員一名当たりの平均原著論文数は1年当たり約1.6件であり、85%以上が査読つき雑誌、このうち49%が外国語であり、国際的な学術活動が展開されている。著書は年平均36件を数え、うち22%が単著であり、学術の社会的還元が評価できる。研究院を特色づける業績である作品等は年平均28件を数え、多岐に及ぶ創作活動が実施されている。学会報告等は年平均391件、一名当たり4件であり、うち23%が国際会議である。研究資金の獲得状況としては、科学研究費補助金を含む外部資金は年平均112件、金額にして2億円以上のプロジェクトが定常的に進行中である。うち科学研究費補助金は約1億2,000万円を占め、基盤研究(S)を3件並行して実施するとともに、常に40件近くのテーマが実施されている。21世紀COEプログラム1件が採択されているほか、九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクトとして6件が実施されている。これらの研究に対して累積23件（学術9件、芸術14件）にわたる受賞が与えられているほか、マスコミ報道年平均59件等、社会的評価も高いことなどは、優れた成果である。

以上の点について、芸術工学部・芸術工学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究活動の状況は、芸術工学部・芸術工学研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

2. 研究成果の状況

期待される水準を上回る

[判断理由]

「研究成果の状況」について、学術面では、知覚心理学、音声科学、文化史、言語学、情報技術、人間工学、医用技術などのほかCG作品、建築等、幅広い研究活動が展開している。優れた研究成果としては、例えば映像作品「SAMURUNORI」、都市空間の近世史研究、両眼立体視における奥行き知覚研究などが高い評価を得ている。社会、経済、文化面においては、デザインのビジネス展開のための実践的研究において卓越した研究成果が認められる。特に、不焼成リサイクルしつくしセラミックスのデザインの研究は、グッドデザイ

ン賞の受賞など卓越した評価を得ている。また、優れた研究成果としては、九州大学病院小児医療センター、片山雅史展等の作品があげられるなどの優れた成果がある。

以上の点について、芸術工学部・芸術工学研究院の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、研究成果の状況は、芸術工学部・芸術工学研究院が想定している関係者の「期待される水準を上回る」と判断される。

II 質の向上度

1. 質の向上度

大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している

当該組織から示された事例は4件であり、そのすべてが、「大きく改善、向上している、または、高い質（水準）を維持している」と判断された。

